

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間令和 5 年 9 月 1 1 日
北海道開発局
旭川開発建設部
網走開発建設部

道北地域、オホーツク地域で道路施設等を活用した 中継輸送実証実験を実施します！ ～ご協力いただける運送事業者を募集します～

北海道開発局では、高規格道路の管理ステーション等の道路施設を活用した中継輸送実証実験を行っています。今回、道北、オホーツク地域において中継輸送実証実験を実施しますので、ご協力いただける運送事業者様を募集いたします。

- 1 実施場所 名寄市^{となみ}砺波、遠軽町^{しらたき}白滝 ※具体的な実証実験内容、場所は別紙2、別紙4を参照
- 2 実施日程 名寄：令和5年10月上旬～11月上旬の約1ヶ月及び降雪期（1月～2月を想定）
遠軽：令和5年10月上旬～11月上旬の約1ヶ月
- 3 実施主体 旭川開発建設部、網走開発建設部
- 4 募集期間 令和5年9月11日（月）～9月25日（月）
- 5 募集要項 別紙3、別紙5のとおり

<これまでの経緯>

- ・生産空間の維持・発展を目指し、地域課題の解決に向け3つのモデル圏域で先導的取組を推進しています。
- ・名寄モデル圏域においては、最大の地域課題である持続可能な物流システム構築に向け、圏域の関係者・物流事業者と連携して中継輸送等の実証実験に取り組み、物流のサービス水準確保の効果を確認するとともに、生産空間における持続可能な物流システムの実装に向けた仕組みづくりの検討を行っています。
- ・今後、本実証実験の結果については「共同輸送・中継輸送実装研究会」にも共有し、連携しながら将来的な実装に向けた検討を進めていきます。（<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000010y86-att/slo5pa0000chousei.pdf>）

※昨年度までの取組状況

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000010y86-att/slo5pa0000011t18.pdf>

※「生産空間」については、以下 URL（北海道開発局ホームページ）をご覧ください。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/keikaku/splaat0000013gzk-att/splaat0000013h6g.pdf>

※物流システムの実装に関する調査について

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/chousa/u23dsn000001rud-att/slo5pa0000012s jc.pdf>

【全般に関する問合せ】国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課 電話（代表）011-709-2311
伊藤 典弘（内線5845）、角張 弘幸（内線5958）

【実証実験に関する問合せ】

（道北地域）国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部 道路計画課 電話 0166-32-4285
坂本 毅（内線 3351）、秦 地大（内線 3358）

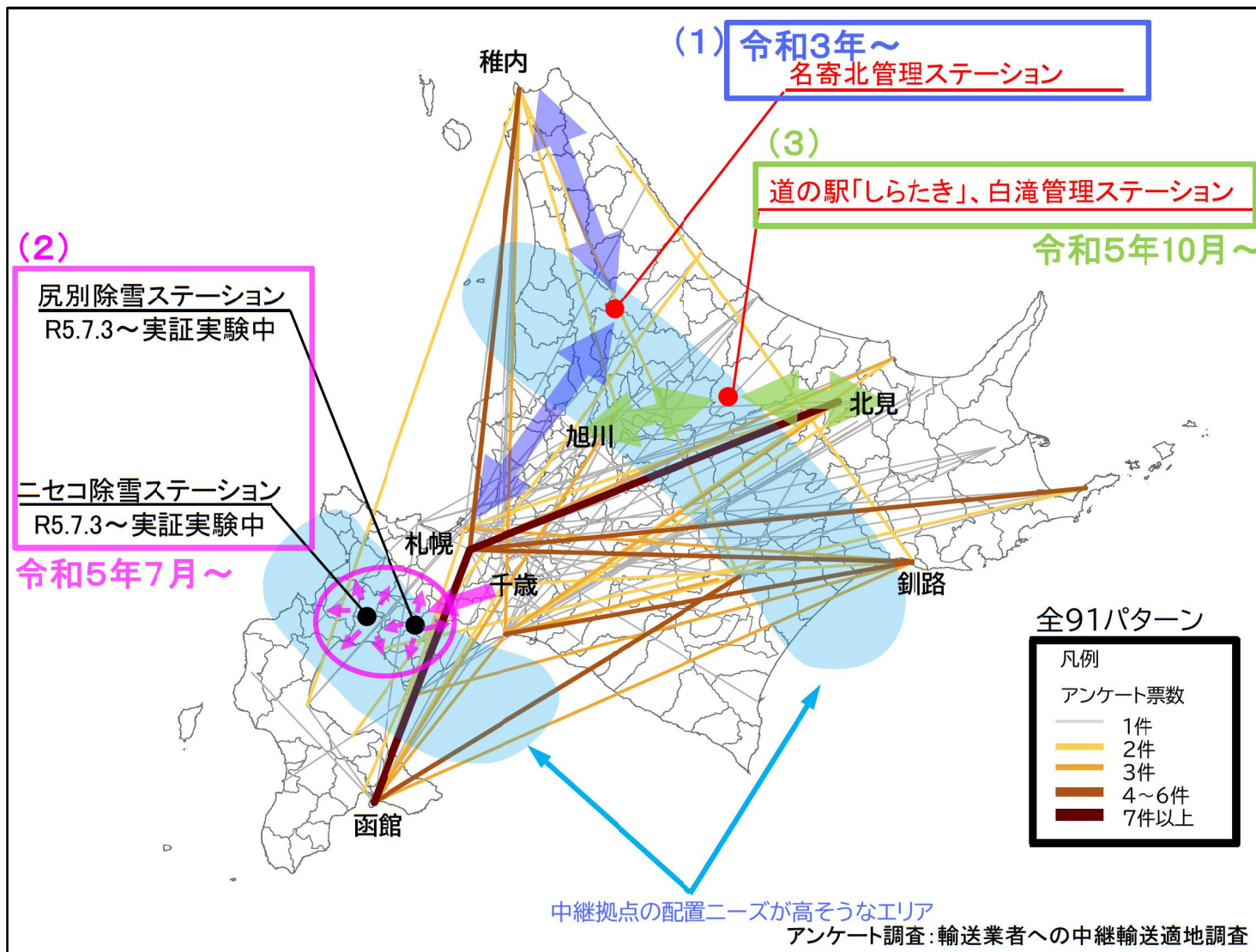
（オホーツク地域）国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 道路計画課 電話 0152-44-6510
横山 朋紀（内線 351）、本間 光世（内線 477）

北海道開発局ホームページアドレス <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



○令和4年度に道内の物流事業者※1を対象に実施したアンケート（回答数N=212件）より、将来的に中継輸送を実施したいODパターン（市町村間における輸送OD）は、以下に示す91パターンを確認。
 長距離においては、札幌―北見、札幌―函館、札幌―稚内等のトリップが多く、中距離においては、旭川―北見等ニーズもあり、北海道内の物流事業者の主要な中継輸送ODパターンと考えられる。

- (1) 令和3年度～ 札幌～道北間（約400 km）での中継輸送実証実験 【今回①】
- (2) 令和5年7月～ 千歳～後志地域での中継輸送（地域内配送）実証実験
- (3) 令和5年10月～ 旭川～北見間（約200 km）での中継輸送実証実験 【今回②】



令和4年度の道北地域での実証実験の状況



注)
 左図の動線上の中間に立地するエリアが中継拠点の配置ニーズが高そうなエリアと考えられ、このエリアに立地する道路施設(道の駅、駐車帯、SAPA、除雪ステーション等)を対象に中継輸送拠点候補箇所を検討。
 ※1：貨物自動車運送業法による許認可を所有した道内に営業所のあるトラック事業者(4,792社)

①札幌～道北間(約400km)での中継輸送の概要

【課題・目的】 道北と札幌圏を結ぶ物流輸送において、現在往復で13.5時間を要しており、令和6年4月に施行されるトラックドライバーの働き方改革に関する法律が適応され、従来の輸送が困難となることから、道北地域の物流と生産空間の維持を目的とする。

【実証実験概要】 高規格道路直結の名寄北管理ステーションにおける24時間対応の中継輸送（ヘッド交換・ドライバー交換・荷物積替え）と降雪期での中継輸送、シャーシの一時保管およびヤマト運輸(株)名寄営業所※（大型荷物積替え）を活用した実証実験を実施。

【期間】 令和5年10月上旬～約1ヶ月及び降雪期（1月～2月を想定）

【場所】 名寄北管理ステーション（名寄市砥波）、ヤマト運輸(株)名寄営業所（名寄市徳田）

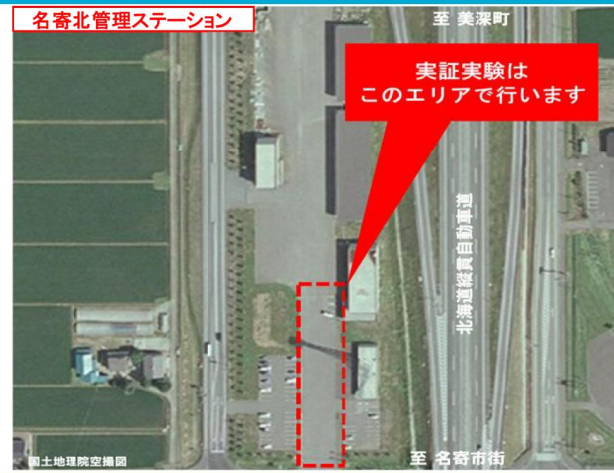
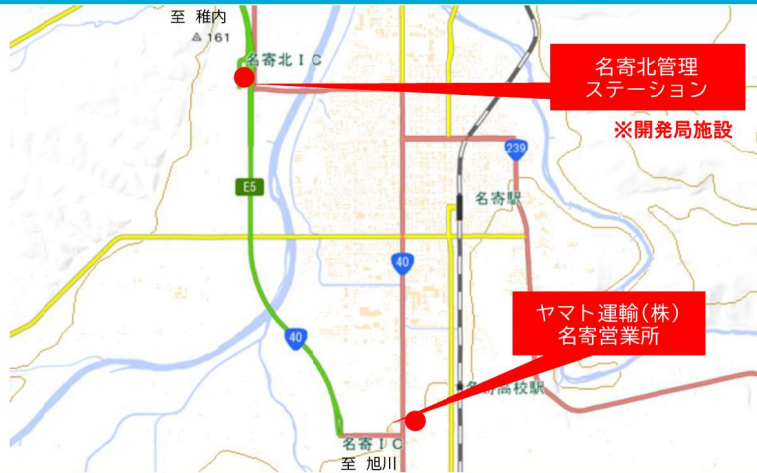
【効果検証】 名寄北管理ステーション等の活用によるドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化、一時保管時の課題、夜間の対応、降雪期における作業上の課題及び高規格道路直結の道路施設の有効性等把握

※「北海道開発局及びヤマト運輸株式会社の北海道の生産空間の維持発展に資する連携協定」に基づき実施。



実証実験の状況（道の駅での実験）

実験概要

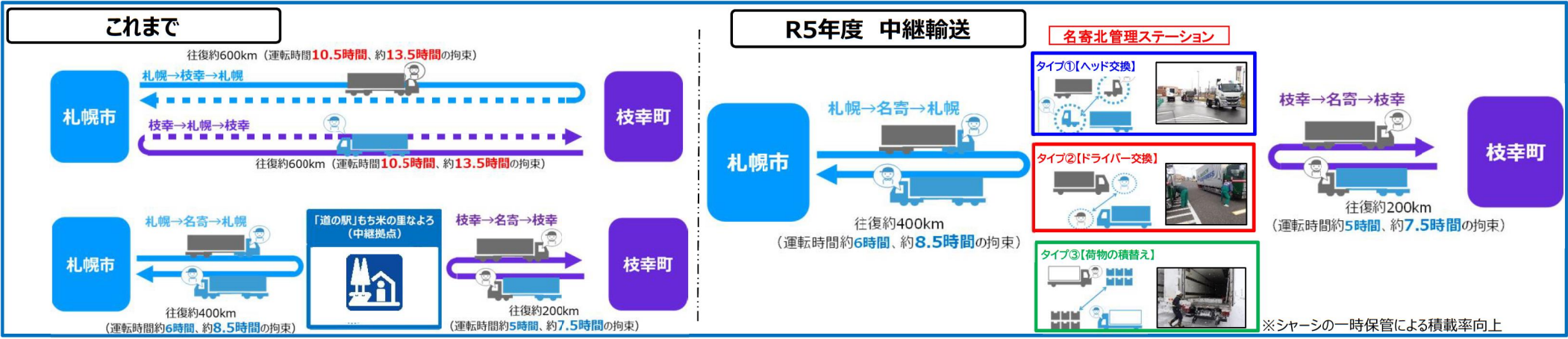


○中継輸送の例

タイプ①【ヘッド交換】

タイプ②【ドライバー交換】

タイプ③【荷物の積替え】



管理者記入用（申込年月日 令和 5 年 月 日 No. ）

【 申 込 書 】

名寄北管理ステーション（名寄市砺波）等での中継輸送実証実験

(フリガナ) 事業者名：
(フリガナ) 代表者氏名：
(フリガナ) ご住所：〒
ご連絡先 電話番号：() E-mail アドレス： ※日中連絡がつく番号を記載願います。
主な中継輸送のパターン： ①ヘッド交換 ②ドライバー交換 ③荷物積替え ※複数回答可
主な輸送品：
利用頻度（予定）①1か月に2～3回 ②1週間に2～3回 ③それ以上
ご要望など (例：今回の実験で想定する中継輸送パターン以外の●●方法を希望 など)
備 考

<参加申込書の提出及び問合せ先>

■窓 口 株式会社ドーコン 交通部（旭川開発建設部からの委託受注者）

■担 当 こばやし たかし えんさか たくや
小林 岳、遠坂 拓也

■住 所 060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目6番地さっぽろ創世スクエア24階

■連絡先 TEL：011-801-1520 FAX：011-801-1521

E-mail：tk1120@docon.jp

※お問い合わせは募集期間中の平日9：30～16：30の間をお願いします。

※降雪期に予定している実証実験時期は、別途調整予定です。

②旭川～北見間(約200km)での中継輸送の概要

【課題・目的】

オホーツクの農産品の一部は、北見市から旭川市へトラック輸送されているが、現在2往復で13.5時間要しており、令和6年4月に施行されるトラックドライバーの働き方改革に関する法律が適応されると従来の輸送が困難となることから、オホーツク地域の物流と生産空間の維持を目的とする。

【実証実験概要】

高規格道路直結の白滝管理ステーション及び道の駅「しらたき」を活用した、中継輸送（ヘッド交換・ドライバー交換・荷物積替え）実証実験を実施。

【期間】

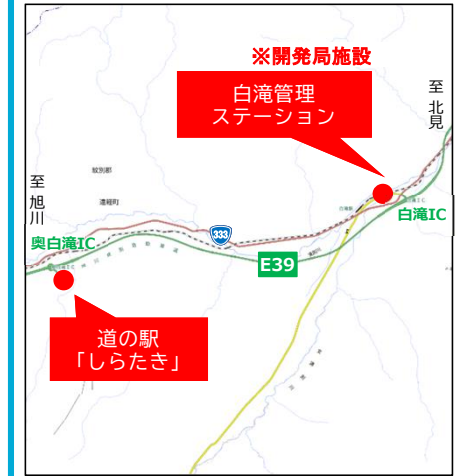
令和5年10月上旬から約1ヶ月間 ※期間中に複数回実施予定

【場所】

白滝管理ステーション 紋別郡遠軽町白滝（旭川・紋別自動車道 白滝IC隣接）
道の駅「しらたき」 紋別郡遠軽町奥白滝（旭川・紋別自動車道 奥白滝IC隣接）
※道路交通状況や輸送発着地により輸送時間が変わるため、上記2箇所を実施予定

【効果検証】

白滝管理ステーション及び道の駅「しらたき」の活用によるドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化、高規格道路直結の道路施設の有効性、災害による鉄道運休時のトラック代替輸送における機能、効率的な輸送方法の確認、オホーツク地域における中継拠点適地の確認



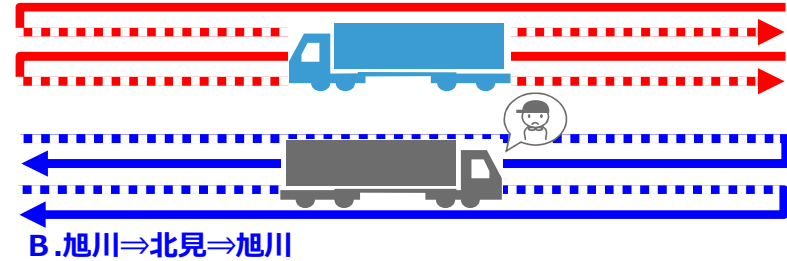
これまでの単独輸送と中継輸送の比較（イメージ）

これまで
(単独輸送)



旭川市

A. 北見⇒旭川⇒北見



北見市

B. 旭川⇒北見⇒旭川

片道約160km（2往復13.50時間の拘束 ※運転時間約12.0時間）

R5年度
中継輸送

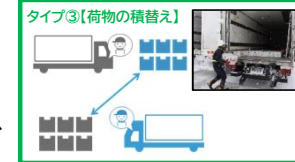


旭川市

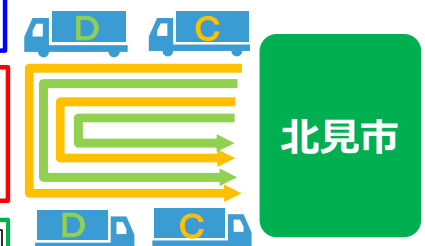
A・B. 旭川⇒白滝⇒旭川



片道約80km
(4往復13.50時間の拘束)
※運転時間約6.0時間/台



C・D. 北見⇒白滝⇒北見



片道約80km
(4往復13.50時間の拘束)
※運転時間約6.0時間/台

北見市

管理者記入用（申込年月日 令和 5 年 月 日 No. ）

【 申 込 書 】

白滝管理ステーション及び道の駅「しらたき」での中継輸送実証実験

(フリガナ) 事業者名：
(フリガナ) 代表者氏名：
(フリガナ) ご住所：〒
ご連絡先 電話番号：() E-mail アドレス： ※日中連絡がつく番号を記載願います。
主な中継輸送のパターン： ①ヘッド交換 ②ドライバー交換 ③荷物積替え ※複数回答可
主な輸送品：
利用頻度（予定）①1か月に2～3回 ②1週間に2～3回 ③それ以上
ご要望など (例：今回の実験で想定する中継輸送のパターン以外の●●方法の希望 など)
備 考

<参加申込書の提出及び問合せ先>

- 窓 口 パシフィックコンサルタンツ株式会社
北海道社会イノベーション事業部（網走開発建設部からの委託受注者）
- 担 当 西川 洋一、 瀧上 翔志
- 住 所 〒060-0807 札幌市北区北7条西1丁目2番地6 NCO 札幌 15F
- 連絡先 TEL：011-700-5225 FAX：011-727-1012
E-mail：hka_03traffic_abashiri@tk.pacific.co.jp
※お問い合わせは、募集期間中の平日9：30～16：30の間をお願いします。

【参考】千歳～後志地域での中継輸送(地域内配送)実証実験の概要

【課題・目的】 地方部は1つの中継拠点で広域な地域をカバーしており、輸送が非効率となっている。
地方部の中継拠点から配送エリア内各地への輸送を効率化することを目的とする。

(中継拠点の機能)

- ①都市間の輸送を中継する機能
- ②地方部の中継拠点から配送エリア内各地への輸送を中継する機能←今回の実証実験での着眼点

【実証実験概要】 道路施設(除雪ステーション)を中継拠点として活用することにより、都市間(千歳⇄倶知安)を輸送する大型トレーラーから後志地域内(中継拠点⇄各市町村)を輸送する小型トラックに荷物を積み替える中継拠点を、現状の1箇所から3箇所に増設。

【期間】 令和5年7月3日(月)～令和6年3月29日(金)の平日

【場所】 ニセコ除雪ステーション、尻別除雪ステーション

【効果検証】

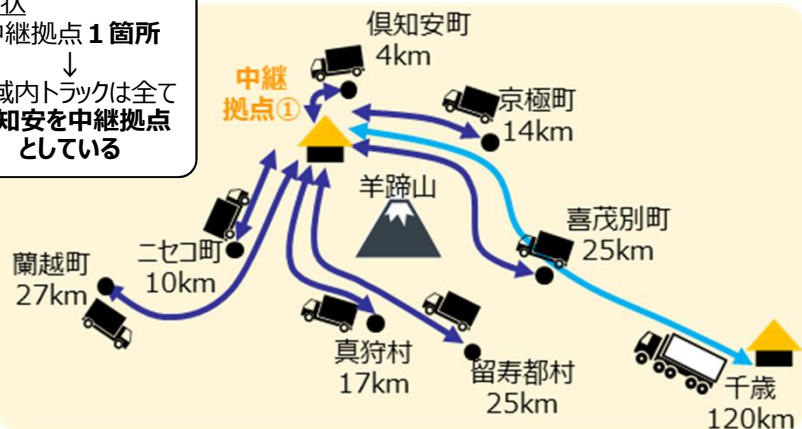
除雪ステーションの活用による、ドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化等を把握

＜後志地域の物流中継地点＞



実証実験のイメージ

現状
中継拠点 1箇所
↓
地域内トラックは全て倶知安を中継拠点としている



○配送距離概算

現状(片道)	
都市間トレーラー	約120km
地域内トラック	約122km
合計	約242km

実験時
中継拠点 3箇所
↓
地域内トラックは最寄中継拠点を活用



実験時(片道) 想定

都市間トレーラー	約130km
地域内トラック	約 46km
合計	約176km

効率化

凡例

- 千歳 都市間トレーラー 移動経路・距離 (千歳→中継拠点)
- 町・村 地域内トラック 移動経路・距離 (各町村→中継拠点)
- 従来の拠点 (倶知安および千歳)
- 中継拠点 除雪ST (ニセコおよび尻別)